

シニア便り

第26号(2014年3月発行)
発行：北海道シニア吹奏楽団事務局
編集：シニア便り編集部

管弦楽法つまみ食い その4

吹奏楽の楽器の使い方 ~基礎の基礎~

石井 邦紀

新入団員のごあいさつ

中屋 心人

新企画・団員のことをもっと知ろう!

柿岡 武弘

長内 孝一

管弦楽法つまみ食い その4

吹奏楽の楽器の使い方 ~基礎の基礎~

副指揮者・石井 邦紀

前回(その3)では倍音構成、形成音、弦楽器と打楽器の音色と特徴について述べました。今回は、管楽器の音色と特徴について述べてみます。この部分については、皆さんが日頃耳にしている楽器のことなので、容易にご理解いただけたと思いますが、文章に整理すると一層理解が深まると思います。

フルート(倍音なし・形成音なし)

倍音成分が非常に少ない純音に近い音色です。ほぼその周波数の音だけを響かせる楽器なので、当然形成音はない、倍音成分が少ないと言うその性質こそがフルート音の特徴と言えます。形成音が無いから他の音に邪魔されることがなく、フルート音は他のどの楽器ともなじみやすい。高音域は非常に明るく表情豊かな明瞭で透明感のある音色でありマスクされることは無いが、低中音域で音域が下がるほどマスクされてしまい、低中音域ではソロかそれに近い用い方が必要となります。

オーボエ(高次倍音強調・形成音A5)

高次倍音が強調されしかも不規則な倍音構成

となっている独特の音色を持っています。そのため、他の楽器と同時に演奏してもマスクされることが無い。ユニゾンで奏してもその音色は際立ち他の楽器と組み合わせてハーモニーの一部として用いるとやや突出しやすい。オーボエの音を特徴づける形成音はA5の周辺にあり、倍音特性上どの音を鳴らしても固定形成音のA5周辺の周波数帯の音は鳴ります。しかし、鳴らした音がA5を越えてしまうと形成音は全くなくなるため、A5より上の音色はイメージが変わってしまいます。

クラリネット(独自倍音構成・形成音なし)

唯一閉管構造を持ち、奇数倍音しか存在しない独特の音色を持つ楽器です。クラリネットの音はクラリネットにしか出せません。基本的に倍音は元の音が低いほど目立つ音であり、シャルモーと呼ばれる低音域はクラリネットの独特の倍音を強調した音色になります。独特の倍音が目立ちにくい高音域は、明るく晴れやかや、暖かく透明、時には鋭く等、豊かな表情の表現ができます。喉の音と呼ばれる中音域は他の音域に比べて音が薄くなり音型によっては指使いが難しくなり注意が必要。クラリネットは倍音構成の方が特徴的なので、これと言った形成音は特に存在しません。



ファゴット(独自倍音構成・形成音C5)

オーケストラ楽器の中ではおそらく、一番扱いに配慮が必要な楽器です。倍音構成はオーボエ以上に不規則で、元の音が全く鳴らない音域もあります。例えばC1の音を鳴らしてもC1の音は鳴らない、実際に鳴るのは第2倍音からの倍音成分だけです。差音によって鳴っているように聴こえるのです。ファゴットの低音部はほぼ差音の作用で鳴らしているため、他の楽器がファゴットの低音部に重なると、ファゴットの音色は、全く低音部が消えてしまったような感じになります。ファゴットは上記のように倍音構成が不規則なため、倍音構成が特定されず、結果としてファゴットの音色は形成音が非常に

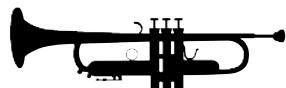
重視されます。そのため、ファゴットの形成音であるC5周辺の音域を、他の楽器で適当に埋めてしまうと、ファゴットの音色を殺してしまうこととなります。

ホルン（低次倍音強調・形成音なし）

階段上に綺麗に変化していく倍音を持っていて、特徴的となる形成音もこの楽器には特にありません。そのため和音を綺麗に響かせることができ、この楽器の最大の特徴となります。またこうした音色のため、金管とも木管とも良く溶け合い、両者を結びつけるように用いられることも多い。木管楽器郡のクレッシェンドなどダイナミクスを補助する使い方に効果があります。

トランペット（低次倍音強調・形成音高音域）

倍音構造としては低次倍音が強いが、トランペットの音色を特徴づけているのは高音域の形成音になります。そのため、管弦楽器ではフルートとかバイオリンの高音域のような、かなりの高音が出せる楽器でないとマスクできません。トランペットの形成音をマスクできるくらい高音域が強いと、そもそも楽曲として不自然な状態になってしまう可能性が高いので、合奏体の中では最もマスクされにくい楽器と言えます。



トロンボーン（高次倍音強調・形成音C4）

金管楽器には珍しく高次倍音が強い音色です。形成音も非常に低い位置にあるのが印象的。トロンボーンは形成音が非常に低い位置にあるので、高音域を出そうとすると形成音が鳴らなくなります。トロンボーンはC4の形成音を境にして、音色が大きく変わって聴こえるため、その境をうろろろするような旋律を奏でると、不自然な印象となりやすく注意が必要。C4より上の音は形成音が無いいため、音量によってはマスクされやすくなります。

チューバ（独自倍音構成・形成音C4）

倍音が一定しなかったり低音は元の音が弱まったりと、同じ低音楽器のファゴットと似た性質を持った音色です。ファゴットに比べれば倍

音も安定していて形成音も強く、低音でも元の音が完全に消えてしまうことはないので、ファゴットほどマスクされることに気を使う必要はありません。ただ取り扱いはファゴットに準じます。低音を鳴らしてる時にその倍音を邪魔する音が入ったり、形成音近辺に他の楽器があるとマスクされやすくなります。



サクソフォーン（独自倍音形成）

比較的新しい楽器であり、比較的合理的な設計で作られ、クラリネットと同じくシングルリードの楽器だが、全体として円錐状になっているため、整数倍の倍音を出すことができ、円筒管のクラリネットとは全く異なる音色となります。また、偶数倍音が出るためオクターブキーを操作することにより、他の指は同じフィンガリングのままオクターブの異なる音階が吹けることも、クラリネットと異なる特徴。一般的にはソプラノからバリトンまでが用いられるが、各楽器とも音色の変化の幅は他の管楽器より大きい。クラシックやジャズ、ポップスと音楽のジャンル毎の音色のイメージの差も大きい。

ユーホニウム（低次倍音強調）

「ユーホニウム」と称される事もあるが、正しくは「ユーホニアム」是非、正しい名称で読んであげましょう。チューバのオクターブ上の楽器として考えることもできるが、サクソルン属の楽器から発達したものであり、より円錐管の特徴を強く持ち倍音が綺麗に並ぶが、管の太さにより高次倍音の減衰が大きい。その為、太く柔らかい音としてイメージされることが多く、その特徴から他の楽器の音と溶け込みやすいため、吹奏楽の中では様々な用途に用いられています。しかし、奏法の工夫による音色の自由度は高く、近年、独奏楽器としての地位が高まっています。

これまで述べた、楽器ごとの特徴を踏まえ、楽器の組み合わせ方を学び、和声学や対位法の理論をベースに編曲をするわけですが、実際に書いてみるのが大切です。その為に、まずは、

自分の演奏している楽器のアンサンブルを編曲してみたいか、自分の演奏している楽器でしたら効果的な使い方や、難しく避けた方が良い使い方がよく分かっていますから、編曲が容易にできます。西洋音楽の基本はソプラノ、アルト、テナー、バスの4声体になります。バイエル等の簡単なピアノ曲を4～5声のアンサンブルに編曲してみることからトライしてみてください。

新入団員からのごあいさつ

「シニアにいらっしやるんですね」

ホルン 中屋 心人

吹奏楽とホルンとの出会いは中学生から。吹奏楽部にいた友人から誘われ、中途入部だった事もあり募集枠が余っていた楽器がホルンでした。それから高校までは吹奏楽漬けの日々。部活だけに留まらず自分の部屋でも常に吹奏楽やオーケストラがBGMでした。社会人からは仕事の都合上、楽器を練習できる時間が取れなかったのが楽団などに所属せず演奏会に行ったりたまたま楽器を吹いたり細々と活動していました。

昨年9月、全道大会にヘルプとして参加後の帰り道、ある方の楽器にシニアのネームタグがぶら下がっているのを見た時の一言が表記冒頭の一言でありシニアとの出会いです。翌月には演奏会のチケットを頂き瞬間に見学へ。皆様が暖かく迎え入れて頂き、バンドの落ち着いた感じも手伝って入団を決意しました。

妻と小さな子供が一人おり、互いの仕事の関係で練習に参加出来ない時もあるかもしれませんがなるべく参加していきたいので皆様よろしくをお願いします。

団員のことをもっと知ろう！ #001

トロンボーン 柿岡 武弘

最初の登場は「第21回定期演奏会」の実行委員長・柿岡さんです。柿岡さんは「射手座」のO型で酉年、入団はH12年11月、第8回

定演(H13)より、担当パートは主に2,3番Tbです。第15回定演で実行委員を、H21年4月～理事、H21年11月～H24年3月末まで事務局長(臨時)として活躍。

柿岡さんのことをいろいろ教えてもらいました！(編集部記)

出身地：秋田県

音楽以外の趣味：ソフトテニス 現在は「縄文遺跡」の勉強にはまっています

仕事：NTTに無線通信士で入社後、仕事が変わりケーブル敷設の現場作業をしたり電話の故障修理を担当

性格：根暗、おっちょこちょい

好きな本：「鬼平犯科帳」等の池波正太郎、藤沢周平のもの

楽器を選んだ理由：他の楽器は恰好が良すぎて、自分のタイプではない

やってみたい楽器：ユーフォニアム

自分を例えるならこの楽器：当然トロンボーン、ただしソロは取れない伴奏専門

アクシデント：第13回定演で旭小学校との合同演奏の時、ソロを吹くはずがリズムがズレ音を出せず、エアー・トロンボーンで吹く真似だけをしてしまった。

聴きに来ていたカミさんに音が聞こえなかったと言われたが・・・吹いてないから当然

夢、目標：つい最近までは口笛を吹くような感じでメロディーを自由にふけるようになりたいと思っていたが、音感のない事がはっきりしたので諦めている。

思い出の〇〇：やはり最初の定演で演奏した「フィンランディア」

団員へ一言：団の運営にもっと積極的に関わって欲しい

団員のことをもっと知ろう！ #002

ファゴット 長内 孝一

次の登場は、第21回定演から故・林団長のご家族から寄贈されたファゴットで出演予定の長内さんです。長内さんは「おうし座」のA型、第17回定演前に入団、テナーやバリトンサツ

クスを担当、ファゴットへの移籍経緯は、以前からバリサクで時々ファゴットパートの楽譜を吹いていたこともあり、中村先生からのお誘いを受け、おもしろそうなので即決したそうです。ファゴットは、フィンガリングが不思議で音程もアバウト、もちろんチューニングする部分もないので、全て口まかせ、原始的な楽器なんだそうです！（編集部記）

以下、長内さんより「まだまだ吹ける段階に至らず、雑音だらけですが、この年齢でもチャレンジ精神があれば、ある程度は吹けるようになるはずだという信念の元、頑張ります！」

出身地：函館ということにしておきましょう

音楽以外の趣味：軍事マニアだったりします。特に第二次大戦中の艦船についての資料集め等です。作っていない艦船のプラモもたくさんあり、いつか作ろうと思いつつ、箱が増えていくだけです。観る映画も海を舞台にした戦争ものです。それとクルマです。今まで20台以上のクルマを乗り継いでいます。

仕事：某通信会社で、料金担当、要するに金取りの仕事をしています。

意外な一面：洗濯とアイロンがけが得意です。なぜか親父から教えられました。

株や国債等に投資し、損したり、儲けたりしています。今まで、拓銀、東京電力の株で、大損しています。

サクスは？：サクスも吹き続けています。サクスアンサンブルチームを作って活動しています。バリを持っていることから、どうしてもバリを吹く機会が多くなります。でも、本当はアルトを吹きたいんです。

あこがれ(やってみたい)の楽器：あこがれの楽器はオーボエです。音に存在感がありますから。

吹いてみたい楽器：ホルンです。元々がホルン吹きですから。それとオーボエです。存在感のある音が最高です。

いままで本番であったアクセント：

楽譜を全部、家に忘れてきたため、急遽バスクラ、チューバの楽譜をコピーさせてもらい、バリで演奏しました。(先日のシルバーハイツの

出来事です)

キタラで、ソロの大はずし。その時の録音CDは未だに聞くことが出来ません。

これからの目標：80歳まで吹き続けられる身体作り。一昨年から、この目標を自分に課し、身体の悪い部分を徹底的に治してきました。特に目は、今やらなくてもいい手術をし、少しでも楽譜を読みやすくするよう改善しました。また、体重の軽減、歯の治療、基礎代謝のアップ等にも取り組んできました。

思い出の曲：43年前、アルトホルンで、初めて合奏に参加したときの曲、軍艦行進曲と、士官候補生。それと、木陰の散歩道。高校の吹奏部で、演奏会の最後に必ず演奏していた曲で、ラララーと歌う部分が好きでした。これら3曲は、また演奏してみたいです。

最後に一言：指揮を見ましょう！

=====

編集余録

=====

雪もだいぶ溶けましたね。春が待ち遠しいです。今年の冬の練習場は体育館とは違ってかなり快適でしたね。豊水会館の館長さんは北海道シニア吹奏楽団のファンだそうです。そのため、練習日を優先的に入れてくれたそうです！駐車場の雪はねも市に交渉してくれたそうです。ありがたいですね。もっとシニアファンが増えてくれるように頑張りましょう！（高橋幸恵）

先日はシルバーハイツの演奏会お疲れ様でした。場所の関係などもあり全員で参加できないのが残念ですが、その様子の写真をインターネットからご覧いただけます。シニアのホームページの掲示板にアドレスを載せますのでぜひご覧ください。（長土居梨那）

原稿を募集しています。音楽に関することでこんなことを知ってほしいなど、お気軽に編集部までお知らせください。